青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会

会報　第４号　　平成２５年６月４日発行　　会長：嶋田博信

事務局：〒294-0036 千葉県館山市館山 95 小高記念館（NPO 安房文化遺産フォーラム）
TEL&FAX：0470-22-8271　E メール awabunka@awa.or,jp

公式サイト http://aoki-shigeru.awa.jp/　**New!**ブログ布良･相浜の漁村日記 http://meranoumi.wordpress.com/

館山市ふるさと納税で小谷家住宅の修理基金募る

ＮＰＯ法人青木繁「海の幸」会や石橋財団から支援

青木繁が逗留した小谷家住宅（館山市指定文化財）は画家の聖地といわれ、ぜひ後世にのこしたいと願う人びとの輪が全国に広がっています。館山市ふるさと納税では、「小谷家住宅の保存・活用事業」を指定すると、所得税などの税金が軽減される寄付制度が利用できます。

全国の著名な画家の皆さんはNPO青木繁「海の幸」会を設立し、修理のための募金活動をすすめています。同会の大村智理事長（女子美術大学理事長・北里大学名誉教授）は、昨秋政府から文化功労者として顕彰され、その記念として館山市ふるさと納税に 300 万円のご寄付をくださいました。

さらに、青木繁の作品を多数所蔵している石橋財団からも、800 万円のご寄付が決まりました。奇しくも、NPO 青木繁「海の幸」会の顧問である鳩山邦夫衆議院議員は、母方の祖父が石橋財団の創業者・石橋正二郎氏で、父方の祖父・鳩山一郎氏は館山を愛し別荘をもっていた（現在の松庵鳩山荘）という深い絆に結ばれています。

ほかにも個人や企業の応援もあり、小谷家の修理基金として館山市ふるさと納税には現在 1,300 万円を超える寄付が集まっています。募金の目標額は、母屋の修理復元と管理棟増改築を合わせて 3,600 万円です。

今も当主夫妻が暮らす小谷家は、布良では「喜録」の屋号で知られる個人住宅ですが、「全国の皆さんが保存を希望し、地域の活性化にも役立つなら、将来は“青木繁が滞在した家”（記念館）として、皆さんでお使いください」とおっしゃっています。修理基金が順調に集まれば、来年度にも着工できるかもしれません。

館山市ふるさと納税については、館山市長公室企画課　0470-22-3163　にお問合せください。

今から 50 年前にも、当時の田村利夫館山市長の呼びかけで、同じように画家の皆さんの募金や絵の売上協力によって、青木繁没後 50 年の記念碑が阿由戸の浜に建てられました。この碑は、一時壊されそうになりましたが、私たち保存会では今でも草刈りなどの保全整備をしながら、画家の聖地を守り続けています。

昨年夏には埼玉県の星野高校美術部 16 名、今春には女子美術大学 45 名の皆さんのスケッチツアーをはじめ、昨年は 700 名もの青木繁を愛する方々がこの地を訪れました。小谷家住宅はまだ一般公開されていませんので、見学ご希望の場合は事前にお問い合わせください。

事務局：池田恵美子 090-6479-3498／小谷福哲 090-3434-3622／小谷由喜枝 090-6158-9703

青木繁「海の幸」オマージュ展

オマージュとは、フランス語で「尊敬・賞賛」を意味します。NPO法人青木繁「海の幸」会が、小谷家住宅の保存を目ざし、修理基金を募るためにチャリティ展覧会を開催しました。昨年は東京展 300 名、館山展 8,250 名の来場者があり、売上は合計 24 点約 315 万円、そのうち 140 万円が修理基金に繰り入れることができました。今年は下記のように開催されます。館山市教育委員会では館山市民を対象に、7月 30 日（火）10:00～18:30 銀座展とブリヂストン美術館へ鑑賞バスツアーが企画されています。問合・申込は生涯学習課（0470-22-3698）まで。

第３回東京展

平成25年7月 19 日（金）～8月2日（金）
銀座永井画廊　（03-3547-9930）
中央区銀座 4-10-6

第４回京都展

平成25年8月6日（火）～8月11日（日）
ギャラリーヒルゲート　（075-231-3702）
京都市中京区寺町三条上る天性寺前町 535

保存会では、こんな活動をしています。

目録

一、金壱拾萬円也

貴会(団体)の活動に協力させて頂きたく
右記の通り寄贈致します

以上

平成二十四年 七月 吉日

日本興亜おもいやり倶楽部
(日本興亜保険グループ役職員有志)

青木繁《海の幸》
誕生の家と記念碑を保存する会殿

＊日本興亜おもいやり倶楽部から助成金

日本興亜損害保険株式会社の社会貢献事業「おもいやり倶楽部」から 10 万円の活動助成金が贈られました。小谷家住宅の整備に使わせていただきました。

＊イオン館山店から助成金

イオン館山店では、毎月 11 日に出される黄色いレシートを、応援したい公益市民活動の箱に投函すると、その年間合計額の1％が商品券として助成されるキャンペーンがあり、10,000 円を贈られました。皆さんも、お買い物の際には、ぜひご協力をお願いします。

◆館山の芸術・文学散歩バスツアー

青木繁をはじめ多くの画家や文人たちが館山を訪れ、素晴らしい作品を描いています。9月1日と10月6日、『房総の文芸探訪』著者で元館山市立図書館司書の池田逸雄氏の案内により、ゆかりの地をめぐりました。絵画では、青木繁《海の幸》、中村彝(つね)《海辺の村(白壁の家)》、多々羅義雄《房州布良を写す》の写生地や、中原淳一が転地療養した海岸に建てられた詩碑をめぐるほか、布良崎神社から発見されたばかりの寺崎武夫の奉納画も初公開されました。彫刻では、北村西望制作の銅像、長沼守敬制作のレリーフ。文学では、青木繁を題材に描いた小説『野猿』、高田敏子の詩『布良海岸』をはじめ、『三太物語』の著者で同名の作家・青木茂の居住地などが紹介されました。 昼食は人気の館山炙り海鮮丼で、海の幸に舌鼓をうち、秋の味覚と文化を楽しんだ一日でした。

◆我孫子の歴史建物を活かしたまちづくり視察ツアー

かつて柳宗悦や志賀直哉ら白樺派が暮らした千葉県我孫子市では、歴史文化を活かしたまちづくりを進めています。なかでも杉村楚人冠記念館(我孫子市指定文化財)は、新聞記者・随筆家として活躍した杉村の私邸を修理復元し、一昨年に開館されました。文化財である個人住宅が、市教育委員会運営の記念館になった先進事例として、当会の運営委員会でも視察研修を行ないました。関東大震災の翌年に建てられた和洋折衷の建物で、庭園も素晴らしく、内部は杉村の業績や家財などが展示されています。学芸員の方に解説していただき、とても参考になりました。

◆漁村の食文化「我が家のご馳走(おらがごっつお)」

館山クッキング大使の料理研究家・川上文代さんを2回お招きし、漁村の食文化研究会を開催しました。11月1日は「長寿安房のおらがごっつぉと発酵食」をテーマとした講演会に 80 名が参加しました。3月5日は男性を含む 30 名が集まり、富崎地区の伝統的な家庭料理の実習会で腕をふるいました。メニューは、クコ飯、ブダイ漬け、ショダキ(魚の塩汁)、若布ぬた、ヒジキ和え、葉ニンニクのオリーブ油、菜の花の辛子和え、トコロテン、海水醤油、キス唐揚、燻製玉子、野草の天ぷらなどなど、漁村ならではの漁師料理はサイコー！長寿の秘訣がよくわかりました。

休校中でも、富崎小学校はつどいの場！

◆元気なまちづくり市民講座

昨春、富崎小学校は児童数の減少に伴って神戸小学校と統合され、休校となりました。高齢化が進んでも「おらが学校」は私たちの心の拠り所です。将来どのような活用方法が望ましいのかを模索しながら、富崎地区の歴史文化とまちづくりについて学びました。県内各地から歴史教育者協議会の先生方も参加され、２月２３日は総勢 120 名の大集会となりました。

地域実践報告では、ＮＰＯ安房文化遺産フォーラムの池田恵美子さんから「３つの“あ”のまちづくり～青木繁・安房節・アジの開き」が紹介されました。まちづくりシンポジウムでは、元館山病院長の高野良裕さん、韓国人留学生のチョン・イルジさん、布良漁協組合長の島田吉廣さん、ＮＰＯ安房文化遺産フォーラムの愛沢伸雄さんが「文化遺産を活かした館山まるごと博物館」をテーマに語られました。ワークショップでは、房州地布や館山の歴史文化の展示紹介のほか、富崎地区からはトコロテンの試食体験を提供し、喜んでいただきました。

◆青木繁《海の幸》フェスタ～富崎コミュニティのつどい

１０月２１日、午前には青木繁《海の幸》ウォーキングと小学校校庭で富崎地区コミュニティのレク大会で汗を流し、午後は体育館に 160 名がつどい、さまざまな催しを楽しみました。まず、劇団かしの樹による影絵『走れメロス』の上演があり、劇団主催者の宮内淳さんと親友のダイバー成田均さんのトークショーでは海について伺いました。宮内さんは、人気ドラマ『太陽にほえろ！』でボン刑事役を務めた俳優です。

その後、「新発見！青木繁が滞在した明治の漁村富崎」をテーマに、小谷家当主の小谷福哲さんや水産学者の大場俊雄さん、元安房博物館長の天野努さんによる報告と解説がありました。日本水産史において重要な漁村だったことや、危険な漁で多かった水難事故対策として生命保険の加入が進められたことも分かってきました。

続いて、語り部さくら貝の庄司民江さんと中学生の浜田雅子さんから、房州弁による富崎地区の民話『布良星』『タコのうらみ』が紹介されました。最後に、富崎の女性たちによる『安房節』『いっちゃぶし』の踊りも披露されました。

これからも地域の誇りとして、素晴らしい歴史文化を語り継いでいきたいものですね。

◆富崎小学校で劇団の若者が合宿、ミュージカル上演！

秋に来訪した宮内淳さんが主宰する劇団歌舞人（かぶと）が、４月２１日から６日間にわたり富崎小学校で稽古合宿をしました。入浴は富崎館と安房自然村の協力を得て、相浜漁協からは相浜亭の大盛りサービスがあり、住民からも様々な差し入れがあり、地元の温かい歓迎ムードに劇団員も大喜びでした。

そのお礼として、最終日の４月２１日には稽古成果の発表を兼ねて、ミュージカル『アラジンと魔法のランプ』が上演されました。館山市内外から 300 人を超える来場者があり、大人も子どもも大感激でした。当会では、公演案内の告知や会場設営、交通整理などに協力しました。

宮内さんが主宰する3つの劇団は、年間 700 公演の全国巡業を行なっています。「日本を代表する青木繁が《海の幸》を描いた富崎地区は、景観が素晴らしく文化も豊かで、芸術家を育てるのにふさわしい場所です。地元の皆さんと一緒に、小学校を使ってローカル劇団を作れば、地域活性化につながると思います」と、富崎小学校の活用プランを提案されました。乞うご期待！

新発見！青木繁が滞在した明治の漁村富崎

昨夏、小谷家住宅の押入れから、明治期の古文書をはじめ著名な人物の書画など、重要な歴史資料が大量に発見されました。これに関連し、館山市立博物館に所蔵されている旧富崎村の資料と合わせて、少しずつ調査が進められています。中でも、近代水産業の先駆者といわれる関沢明清の書簡や、朝鮮王朝の末裔の書は、歴史上興味深い資料として関心が寄せられています。

＊関沢明清と日本重要水産動植物図

関沢明清は、明治期に欧米の万博から近代水産業を学び、人工孵化の養殖や缶詰技術、米式捕鯨銃などを導入しました。自ら水産伝習所の初代所長となって水産教育を進め、その後館山に遠洋捕鯨や漁業の会社を興し、日本の水産業を発展させた先駆者です。

小谷家から見つかった書簡は、明治 23（1890）年に関沢から小谷喜録に宛てたものです。水産伝習所の生徒が実習でお世話になったお礼と、「日本重要水産動植物之図」を贈る旨が記されており、古くから小谷家の居室に掲げられている魚貝図がそれであると判明しました。これは明治 21（1888）年農商務省の制作で、翌年のフランス革命 100 周年記念パリ万博に出品されたものとして、日本では初期のカラー石版印刷として重要であることも分かりました。明治 37（1904）年に滞在した青木繁も、この絵を見たのではないかと思われます。布良から友人の梅野満雄に宛てた絵手紙には、40 種におよぶ豊かな魚貝が列挙されていますが、この絵がヒントになり漁師から名前を聞いて布良の魚貝を覚えたのかもしれません。100 年以上経った今も色あせることなく、鮮やかであることに感動を憶えます。ほかにも、明治期の小谷家が果たした役割を示す重要な資料（感謝状や褒賞状）などが見つかっており、さらなる調査研究が期待されます。

＊内村鑑三に影響を与えた富崎村長・神田吉右衛門

有名なキリスト教思想家の内村鑑三は、水産伝習所教員として漁業実習で布良を訪れた明治 23（1890）年、神田吉右衛門と出会ったことが人生の転機になったと、自ら書き残しています。この実習こそが、関沢書簡に記されている出来事と一致するのです。このことに注目した水産学者の平本紀久雄さんは、神田について調査を進めています。

富崎小学校の正門下には神田を顕彰する巨大な石碑があり、館山市立博物館が所蔵する感謝状からも、その業績が明らかになってきました。県内で最も小さい村の財政を改革し、特に漁業の振興と子どもたちの教育を進めるために、アワビ漁の収穫を村の共有財産として小学校を作っています。小谷家当主の治助・喜録父子も、漁業関係の公職や村議を務め、神田とともに富崎村を支えていた人物でした。

こういう地域だからこそ、青木繁ら4人の若者を気前良くひと夏泊まらせ、重要文化財となる絵画が誕生したのでしょう。私たちも先人に学び、少子高齢化の進む富崎地区の活性化を願ってやみません。ぜひ皆さんも当会の会員になって、一緒に調査やまちづくりに力を貸してください。

文碑ノ翁門工右吉田神

これからのイベント

7月20日（土）館山市中央公民館ふるさと講座：「海の幸」の輝き　講師：吉武研司（女子美大教授）
7月20日（土）布良崎神社祭礼 … 《海の幸》モチーフになったと思われる大神輿は夕方お浜くだりへ。
8月10日（土）安房神社祭礼 … NPO青木繁「海の幸」会がバスツアーで来訪。
10月27日（日）青木繁《海の幸》フェスタ～富崎コミュニティのつどい in 富崎小学校

※ほかにも文化庁補助事業で、文化遺産の保存・活用する人材（ヘリテージマネージャー）講座や、歴史建物視察研修なども計画中です。 参加ご希望の方は、ホームページまたは電話でお問合せください。

＊＊会員募集中！　年会費 2,000 円　郵便振替口座００１５０-6-６１６２０１＊＊